

泌尿器科



■三浦 一郎 泌尿器科部長

日本泌尿器科学会指導医，日本透析医学会認定医，
日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡手術技術認定医，
日本内視鏡外科学会

■村田 憲彦 泌尿器科医長

日本泌尿器科学会指導医，日本泌尿器内視鏡学会，
泌尿器科一般

■吉野 修司

日本泌尿器科学会指導医，日本泌尿器内視鏡学会

■村田 明弘（非常勤）

日本泌尿器科学会指導医，日本泌尿器内視鏡学会

診療科紹介

現在の当院の泌尿器科は2003年4月より杏林大学泌尿器科学教室からの派遣の形で新しい常勤体制で始まりました。

部長の三浦，医長の村田の二人と，週2日の非常勤医で日々外来・手術をこなしてきました。当初は一日外来患者数も30人程度であり比較的患者さんの話もゆっくり聞ける状態でしたが，最近では多い日で一日90人にもなりあわただしい毎日になっています。4人すべてが泌尿器科指導医でもあり泌尿器科医不足に悩む毎日です。

腎移植外科も開設され協力体制を組んで診療に当たっています。

近年の泌尿器科治療の特徴として，非常に高額な大型機材が必要なことがあげられます。当院でも良性疾患から悪性疾患に至るほぼすべての疾患の診察治療をしていますが，腎臓結石に対しては対外衝撃波結石破碎装置がないため近隣病院との連携を保ち患者様を紹介しあい治療を行っています。

近年患者様の体の負担の少ない手術ということで，腹腔鏡手術が普及していますが，当科でも泌尿器内視鏡外科学会の腹腔鏡技術認定医の資格を取得し主に腎癌，副腎腫瘍に対し腹腔鏡手術を施行し，手術翌日から歩行・食事も可能であり患者様からも好評を得ています。神奈川県内の市中病院の泌尿器科ではまだ認定者は少数であり当院でも今後積極的に取り組んでいきたいと思っています。その一環として当科ではダヴィンチという前立腺癌に対する手術支援ロボットを導入し治療を行っています。前立腺癌大国のアメリカでは前立腺癌に対する手術はすでに90%がこのダヴィンチを使用したものとなっています。これは人間の手では不可能な細かい操作をすることが可能になり，そのことにより患者さんにはより負担の少ない治療を提供することが可能になります。まだまだ当科では始まったばかりですが出血量も50ml以下で輸血もなく入院期間も約1週間という良好な成績を取っています。当院の最新の放射線治療機器（トモセラピー）とも合わせ前立腺癌に対する総合的な治療が副作用も少なく可能になりました。手術不能，もしくは転移性の膀胱がんなどに対しては従来より長期入院をしての抗癌剤治療を行っていましたが，最近では当院オンコロジーセンターを活用し短期入院での外来抗癌剤治療も行い患者様の社会復帰の一助になればと考えています。

活動状況

今年度の主な手術数を示します。

・膀胱全摘術	1件
・ロボット支援前立腺全摘術	21件
・腎摘除術	9件
(うち腹腔鏡	8件)
・腎部分切除術	8件
・腎尿管全摘術	11件
(うち腹腔鏡	6件)
・腹腔鏡下副腎切除	1件
・腹腔鏡下移植腎採取術	13件
・経尿道的前立腺切除術	4件
・経尿道的膀胱腫瘍切除術	106件
・尿路結石手術	42件

その他細かい手術を含め合計287件でした。

実際には手術を希望される患者様はたくさんいらっしゃるのですが、マンパワー不足により良性疾患の手術がなかなか予定を立てられない状況にあることが悩みの種です。

また、PSA検診の普及に伴い急速に増えている前立腺癌疑い患者様に対する精密検査である前立腺生検が200件以上ありました。

将来展望

泌尿器科では最近低侵襲治療が非常に普及してきています。その一つとして腹腔鏡下手術がありますが今後さらに積極的に取り組んでいきたいと思えます。

また、手術支援ロボットの導入により将来的には前立腺癌だけでなく小径腎癌に対する腎部分切除術等にも積極的に取り組めるようになっていきたいと思っています。

さらに最新型の前立腺肥大症に対するレーザー機器を導入すべく準備しており、それにより今まで以上に患者様の負担も少なく手術が可能になるのではないかと

と期待しています。

学術業績

公開講座（年12回開催）

三浦一郎．前立腺癌の最新治療

1. 徳藤森雅博，三浦一郎，村田憲彦：子宮頸癌放射線治療後10年で膀胱自然破裂の一例．第127回 多摩泌尿器科医会，東京，2015，1.
2. 徳本直彦，三浦一郎，三宅克典，村田憲彦：当院におけるロボット支援前立腺全摘除術（RALP）の治療経験．第103回 日本泌尿器科学会総会，金沢，2015，4.
3. 村田憲彦，徳本直彦，三浦一郎：当院におけるロボット支援下前立腺全摘除術（RALP）の治療経験．第29回 日本泌尿器内視鏡学会，東京，2015，11.